

緑の風 FAX版



NO. 88 2019年2月28日 JR東労組

JR 東労組ホームページ

盛岡地本の奮闘を糧に!!!

組織拡大をめざそう!!!

盛岡地本 2月21日付 1名再加入

～盛岡地本委員会発言より～

脱退を余儀なくされた方が「戻りたい」と思える分会運動を展開しなければならないと決意した。職場の仲間は、JR東労組に対して「新たな運動」「真に現場の組合員に寄り添える運動」に期待している。何よりもJR東労組が一体となって、各施策をしっかりと議論でき、生涯にわたって安心して働ける環境を望んでいる。そのことを実現するために、愚直に分会から運動をつくり出す。

全組合員が担える分会方針の確立のため、組合員との対話から生まれた方向性を基礎にし、自分たちが納得いく分会方針を練り上げた。分会旅行を始め、望年会、旗開き、転勤者の激励会や毎月開催の職場集会を積み重ねてきた。現在では、ダイヤ改正の問題点や職場環境について集まる場をつくり「私も参加していいですか」との相談も増えた。

9月30日、はやぶさ7号を担当した組合員が、仙台駅発車後水沢江刺駅を2分遅れて通過した事象に対して、現場は懲罰的な日勤教育を1ヶ月程行った。病院に行って精密検査を受けると、SAS（無呼吸症候群）であることが判明した。その結果を区長に伝えると「あなたのSASと私が思っているSASとは違う」と、無責任極まりない返答が返ってきた。SASが原因であれば、マニュアルに沿って教育すべきであり、会社は教育責任を果たすことなく転勤発令を行った。明らかに教育の放棄であり、処分先行の会社姿勢に怒りを持つ。

会社姿勢を正すのは私たちJR東労組だ。分会として、本人に対して指摘し、本人を支えながら現場長に対して抗議してきた。また署名を取り組み、異常な職場を正すたたかいを創り出した。私たちは組織としてたたかっている。様々な価値観を持った組合員が本音を出し合い、仲間の指摘を受けて自分を振り返って共に実践を繰り返す。この繰り返しで組織が強化されていくと実感した。

職場における仲間との実践が、組織拡大につながっている!!!